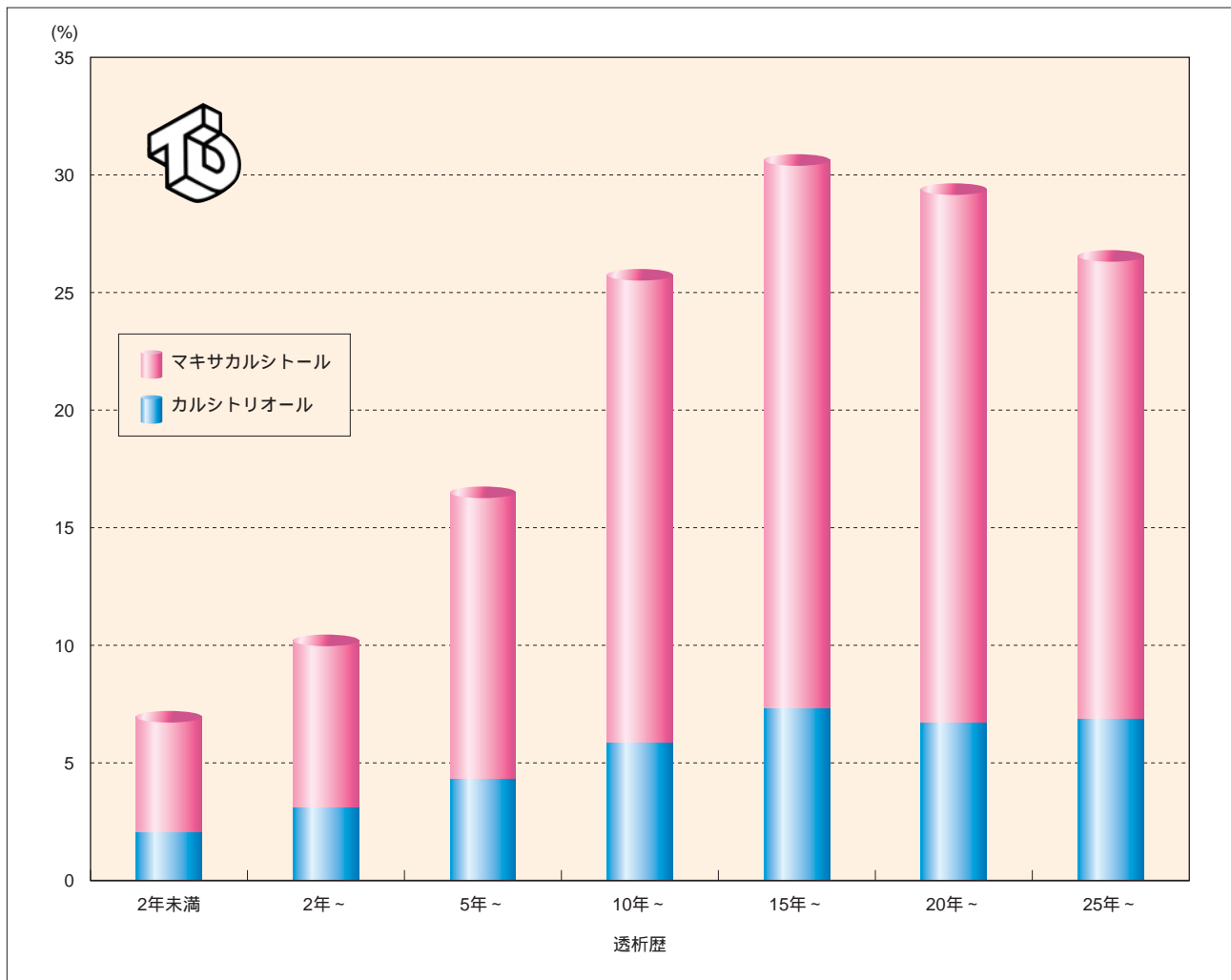


2) ビタミンD製剤の使用状況

(4) 透析歴別 静注ビタミンD製剤の使用頻度 (図表32)



	2年未満	2年~	5年~	10年~	15年~	20年~	25年~
カルシトリオール	925	1,521	2,025	1,327	860	494	388
(%)	(2.1)	(3.2)	(4.5)	(6.1)	(7.6)	(6.9)	(7.1)
マキサカルシトール	2,124	3,417	5,499	4,276	2,625	1,613	1,066
(%)	(4.9)	(7.2)	(12.2)	(19.7)	(23.1)	(22.6)	(19.5)
その他	41	46	89	42	24	26	18
(%)	(0.1)	(0.1)	(0.2)	(0.2)	(0.2)	(0.4)	(0.3)
使用していない	39,679	42,449	37,402	15,973	7,813	4,992	3,989
(%)	(92.1)	(89.1)	(82.7)	(73.7)	(68.7)	(69.9)	(72.8)
不明	298	226	204	69	43	18	17
(%)	(0.7)	(0.5)	(0.5)	(0.3)	(0.4)	(0.3)	(0.3)

数値は列方向の合計に対する%です。

解説

透析歴と静注ビタミンD製剤使用頻度の関連について検討しました。経口製剤の場合とは逆に透析歴とともに静注ビタミンD製剤の使用頻度は増加しており、透析歴20年以降に減少傾向を認めました。

長期透析歴で減少がみられる理由には、二次性副甲状腺機能亢進症に対する保存的治療が困難になり、PTXなどの治療に移行した症例が含まれていることが推測されます。